

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|---------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 課題が残る結果であった |
| ②A話すこと・聞くこと | 課題が残る結果であった |
| ③B書くこと | やや課題が残る結果であった |
| ④C読むこと | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

やや課題が残る結果であった

(その他)

【資料】として示された文を読み、〈条件〉を満たして文章を記述する問題での正答率が低かった。また、漢字を書く問題の無回答率が高かった。修飾語と被修飾語を選ぶ問題も無回答率が高かった一方、同じ使い方をしている言葉を探す問題での正答率は高かった。

分析

例年と比較しても、無解答率が高い傾向が見られた。特に、「漢字を文の中で正しく使う」「文中における主語と述語、修飾と被修飾との関係をとらえる」等、基礎的な知識・技能に関する無解答率が高い。このことから、各学年における基礎的な国語力を高めていく必要があると考える。そこで、日々の新出漢字の学習や小テストに加え、様々な言葉、文の構成についての知識を反復学習の中で深めていきたい。また、様々な問題形式に慣れていくということも、無解答率の減少につながっていくと考えられる。

また、問題文の指示や条件を読み落とし、誤答となる児童も多く見られた。文章を正しく読み、その要旨、書き手の意図を常に意識することの重要性を考えさせていく必要がある。そのためにも、何よりも基礎的な知識・技能を高めていくことが重要である。思考力を高め、正しく題意を読み取り、多面的に物事を考えていく力が子どもたちに身につくよう授業改善をすすめていく。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|----------|---------------|
| ①A数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②B図形 | やや課題が残る結果であった |
| ③C測定 | 課題が残る結果であった |
| ④C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ⑤Dデータの活用 | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

帯グラフで示された複数のデータを比較して考え、文にして答える問題で正答率が低かった。また、同じ形で構成される図形の面積を比較する問題でも誤答が目立った。一方、棒グラフを読み取る問題の正答率は高かった。

分析

総合的に判断すると、やや課題の残る結果であった。中でも「測定」領域については全国平均に比べ、正答率が大きく下回った。50分後の時刻を考える問題や2つの同じ形で構成された図形の面積を比べる問題など、5年生以前に学習した基本的な内容の問題での誤答が目立った。これは、問題文からその題意をつかまえきれなかった、あるいはとらえ違ったことなどが原因と考えられる。記述式での問題に対する誤答が多い傾向も見られるため、問題文を読み取る→考える→まとめて文にする、という一連の学習活動を多く取り入れていくことが必要である。またその中で、他の児童の考えに触れる、他の児童に考えを伝える、「とらえる」機会と「発信する」機会を多く確保できるようにしたい。

算数を“苦手”と感じている児童が多い印象のある中で、無解答率においては全国を下回っており、積極的に取り組んだ様子が見えてくる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

前回の調査に比べて、国語、算数、ともに正答率（全国比）が下がる結果となった。

算数では、正答率が全国を上回っている設問があった一方、基礎的な学習事項を問われた設問で全国を下回っており、課題が残る結果となっている。

国語でも基礎的な学習事項に関する問題の正答率が低かった。無回答率も高く、課題である。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

前回結果に比べ、学力高位層の割合が減少し、低位層が増加する結果となった。エンパワー層についても、この数年の中では最も高い割合を占めている。

正答数別児童数の中央値を全国と比較した場合、国語ではほぼ差がない一方、算数ではやや低くなっている。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

*教師の技術力の向上をめざして、研修の充実を図る。

- ・各教科、各学年で身につけさせる基礎的な指導の統一やスキルの向上
- ・算数スタンダードの策定（筆算の指導方法など）
- ・モジュール学習の充実
- ・研究授業および全学年の授業公開研修

*基礎学力の定着を図るために、教師間の共通認識を図り、取組みを進める。

- ・チャイム着席の徹底
- ・発言ルール、声のものさしの意識づけ
- ・家庭学習の充実（音読・漢字・計算）
- ・児童が使用する用具、指導用教材の統一、購入、整備
- ・計算問題や用語など既習事項の反復学習
- ・全校一斉の計算学習「のびる子タイム」の活用

*低学力層の指導

- ・スクールサポーターと交流会を持ち、課題のある児童の実態把握に努め対応を検討する。
- ・スクールサポーターや関われる職員で、3年～6年の少人数指導の充実を図る。

*スクールサポーターと連携し、学級文庫の充実や読書週間の取組みを進める。

- ・スクールサポーターの活用
- ・委員会活動